

# オムニエース RA2300 追加機能取扱説明書

# 目次

4.1. レベルカーソルの表示.....	4
4.2. レベルカーソルの移動.....	4
5.1. 簡易演算の操作.....	5
5.2. 簡易演算の内容.....	5
6.1. 表示環境の保存.....	6
6.2. 表示環境の再現.....	6
6.3. 再生環境の確認、及び設定変更.....	6
7.1. テキストファイルの保存.....	7
7.2. テキストファイルの読み込み.....	7
7.3. 信号名称テキストファイルのフォーマット.....	7
7.4. ページアノテーションテキストファイルのフォーマット.....	8
7.5. 計測情報テキストファイルのフォーマット.....	8
7.6. 通信設定テキストファイルのフォーマット.....	8
7.7. 関数演算テキストファイルのフォーマット.....	9
8.1. マーク表示の操作.....	10
9.1. マウスカーソルの操作.....	10
10.1. ファイル種別ソートの操作.....	10
11.1. STW WINDOWトリガ条件の設定.....	11
11.2. ITW WINDOWトリガ条件の読み出し.....	11
11.3. SIF 入力モニター時停止の設定.....	12
11.4. IIF 入力モニター時停止の読み出し.....	12
11.5. SIS 入力モニタートリガ同期の設定.....	12
11.6. IIS 入力モニタートリガ同期の読み出し.....	12
11.7. SRI 収録・記録のON/OFF設定.....	13
11.8. IRI 収録・記録のON/OFF読み出し.....	13
11.9. ESI システムイニシャライズコマンド.....	14
11.10. SBR レコーダ基本設定.....	15
11.11. IBR レコーダ基本設定の読み出し.....	15
11.12. SML メモリブロックサイズ(メモリブロック長)の設定.....	15
11.13. IML メモリブロックサイズ(メモリブロック長)の読み出し.....	15

## 1.はじめに

日頃よりオムニエース RA2300をご使用いただき、誠にありがとうございます。本取扱説明書には、V3.2Dで新たに追加された機能について記載されています。本書をよく読んでいただき、正しくお取扱いただきますようお願い申し上げます。

追加機能以外の項目に関しましては、お手持ちの別冊取扱説明書をあわせてお読みください。  
取扱説明書の内容について不明な点がございましたら、弊社セールスマンまでお問い合わせください。

(別冊の取扱説明書)

取扱説明書名称	形式	内容
RA2300 本体取扱説明書	95691-2341-0000	RA2300本体の基本的な機能・操作方法等について説明したものです。
RA2000/DL2800 アンプユニット取扱説明書	95691-2473-0000	各アンプユニットの取扱方法や設定方法について説明したものです。

なお、通信コマンド等について記載された通信取扱説明書は弊社HPより無償でダウンロードいただけます。

## 2.ご使用になる前に

ご使用になる前に、下記表の動作環境をご確認ください。

動作環境

項目名	使用条件	対応メインプログラムバージョン
対応本体	RA2300	V3.2D 以降

確認方法については「本体取扱説明書」の「バージョン表示」をご参照ください。

## 3.機能追加の概要

本書には、V2.x, V3.1からV3.2Dの間に追加・改造を行った機能について記載されています。主に以下の項目が変更となっています

- ・レベルカーソル機能の追加
- ・カーソル間簡易演算機能の追加
- ・設定情報のテキスト保存機能強化
- ・HDレコーダ収録データの表示設定自動再現機能
- ・再生モニタのマークON/OFF、マウスカーソルのON/OFF機能追加
- ・通信コマンドの追加

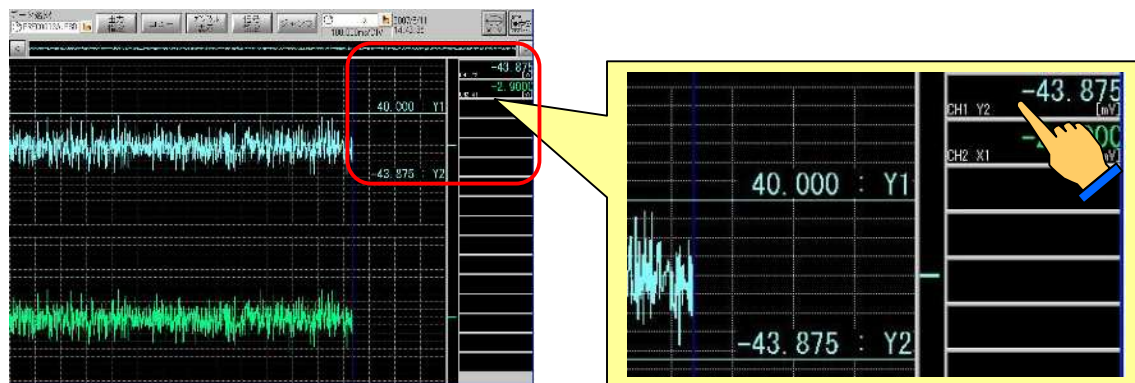
本機能追加はメインプログラムバージョンを上記のものに更新することにより使用可能となります。

## 4. レベルカーソル機能

波形モニタ上に電圧軸上を移動するレベルカーソルを2本表示、その位置の測定レベルを表示します。またカーソル間レベルの差を Yとして表示することができます。

### 4.1. レベルカーソルの表示

デジボル表示をタッチすることにより、該当するチャンネルのレベルカーソルを表示します。



再度タッチすることにより表示モードを次の順に切り替わります。

標準 Y1 Y2 Y 標準

表示モードはデジボル表示内のチャンネル番号表示横に表示されます。

表示モード「標準」の意味はモニタの種類により次のように異なります。

モニタ種	「標準」モードの表示内用
入力	[TOP] 現在の入力レベル値を表示します。
再生	時間軸カーソルの選択状況により、次の3種類に分けられます。 [X1] :カーソルX1が選択されているとき、X1の位置のレベル値を表示します。 [X2] :カーソルX2が選択されているとき、X2の位置のレベル値を表示します。 [TOP]:カーソルX1, X2が選択されていないとき、波形左端位置のレベルを表示します。

表示モードによるデジボル表示内用を以下に記します。

モード	表示内用
TOP	入力モニタの場合、現在の入力レベル値を表示します。 再生モニタの場合、波形左端位置のレベルを表示します。
X1	カーソルX1の位置のレベル値を表示します。
X2	カーソルX2の位置のレベル値を表示します。
Y1	カーソルY1の位置のレベル値を表示します。
Y2	カーソルY2の位置のレベル値を表示します。
Y	カーソル間Y1 - Y2のレベルの差を表示します。

#### ⚠ 注意

デジボル表示領域をタッチしてもレベルカーソル表示モードが変わらない場合、押したチャンネルの波形表示がOFFになっています。表示記録画面 モニタ設定タブの波形記録分割設定で波形表示チャンネルをONにしてください。

### 4.2. レベルカーソルの移動

表示モードが「Y1」または「Y2」時にジョグダイヤルをまわすことでレベルカーソルを移動することができます。また波形モニタをタッチすると該当する位置へ移動することができます。

#### ⚠ 注意

レベルカーソル「Y1」「Y2」が表示されない場合、カーソル位置が波形表示範囲外にあります。波形モニタをタッチし、カーソルを波形表示領域内に移動してください。

## 5.カーソル間簡易演算機能

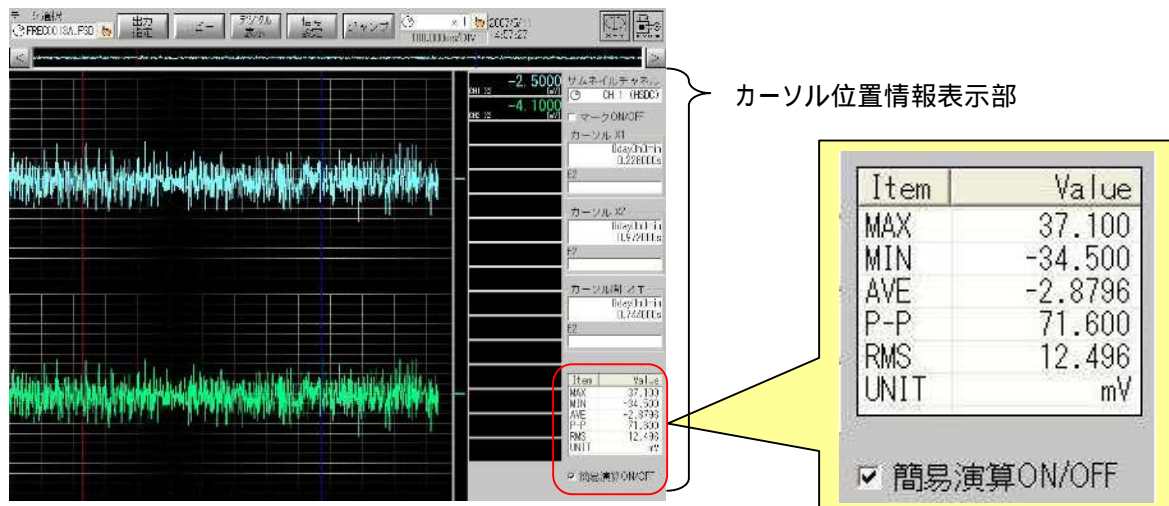
再生モニタの時間軸カーソル間で指定する領域の最大値、最小値、平均値などを表示します。  
カーソル移動によりダイナミックに演算結果を更新することができます。

### 5.1.簡易演算の操作

再生モニタにサンプル形式で収録したデータを表示します。

TOPバーにある「デジタル表示」キーを数回タッチして、カーソル位置情報を表示します。

情報表示の下段にある「簡易演算ON/OFF」のチェックボックスにマークをつけると演算が実行され、演算結果を表示します。



### 5.2.簡易演算の内容

演算対象範囲は時間軸カーソルX1、X2で指定された領域となります。

演算対象チャンネルは、カーソル位置情報表示部にあるサムネイル表示チャンネルとなります。

演算結果として次の5つの項目を出力します。

タイトル	MAX	MIN	AVE	P-P	RMS
内容	最大値	最小値	平均値	MAX-MIN	実効値

#### ⚠ 注意

簡易演算が可能なデータは「サンプル」形式で収録されたデータのみです。  
簡易演算が可能なチャンネルはアナログアンプのチャンネルのみです。

## 6.HDレコーダ収録データの表示設定自動再現

HDレコーダモードで収録したデータを再生するとき、波形分割などの設定をデータの収録時と同じ形式で表示することができます。

データ収録終了時、データファイルと同じファイル名で環境ファイル(.ENV)を自動保存し、再生データ選択時に自動でこれを読み込むことにより、収録時に入力モニタで行った表示形式を再現します。

データ再生時、自動的に再現される項目は以下のとおりです。

波形表示	プリント設定	
波形記録分割	時間軸表記形式	ユーザーアノテーション印字
スケール表示	チャンネルマーク印字	ユーザーアノテーション文字列
スケール表示チャンネル	システムアノテーション印字	計測情報印字
グリッド表示	チャンネルアノテーション印字	計測情報文字列
デジタル値表示	時間軸印字	グリッド
信号名称表示	信号名称印字	振幅軸スケール
カーソル値表示	信号名称文字列	フィード長

これらの項目の再現は入力モニタの設定には影響を与えません。

### 6.1.表示環境の保存

システム - 収録設定 画面「収録ファイル保存後、環境を保存する」のチェックボックスにマークをつけると、HDレコーダでのファイル収録後、環境ファイル(.ENV)の保存を行います。

### 6.2.表示環境の再現

先の条件で収録したファイルを再生モニタで選択をすると、自動的に収録時の表示環境を再現します。フォルダ内の同名の環境ファイル(.ENV)を検索し、このファイルにより環境が再現されます。(同じフォルダに収録データと同名の環境ファイルがない場合、再生環境は変更されません。)

### 6.3.再生環境の確認、及び設定変更

再生モニタを表示した状態で、『表示記録』ボタンをおし「表示記録設定」画面を表示します。この画面に再生時に使用されている設定が表示されます。(入力モニタを表示した状態で「表示記録設定」画面を表示した場合、入力波形に対する設定となります。)

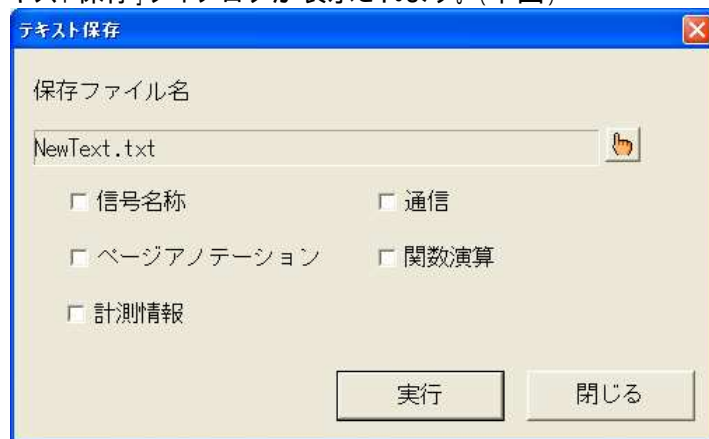
ここで再生設定を変更した場合でも、その内容は該当する環境ファイルには反映されません。

## 7.設定情報のテキスト保存機能強化

従来の「信号名称」「ユーザーアノテーション」「計測情報」のテキストファイル保存、読み出しに加え、「通信設定」「関数演算」の設定情報もテキストファイルとして保存することが可能です。また保存したテキストファイルをパソコン上で編集した後、本体にロードすることができます。保存する設定項目は個別に選択可能です。

### 7.1.テキストファイルの保存

システム画面 ファイル操作タブを表示します。  
保存するフォルダを選択します。  
画面下段にある【テキスト保存】キーを押します。  
【テキスト保存】ダイアログが表示されます。(下図)



ファイル名を設定します。  
保存する設定項目を選択し、【実行】キーを押すと設定情報をテキストファイル(.TXT)として保存します。

【関数演算】のチェックボックスはRA23-751FFT演算ユニット登録時のみ表示されます。

### 7.2.テキストファイルの読み込み

システム画面 ファイル操作タブを表示します。  
読み込むテキストファイルを選択します。  
画面下段にある【読み込み】キーを押します。  
以上でテキストファイルの読み込みが完了します。

### 7.3.信号名称テキストファイルのフォーマット

各チャンネルの信号名称文字列のファイルフォーマットについて説明します。  
信号名称文字列は“TSN”の接頭文字に加え3桁のチャンネル番号、さらに3桁の信号番号の後に、任意の文字列が続きます。

```
//Signal Name
TSN001,001, C H 1 の信号名称
TSN001,002,
  ~ <省略> ~
TSN002,001,
TSN002,002,
  ~ <省略> ~
TSN018,015,
TSN018,016,
```

信号番号は001～016までありますが、002以降はイベントアンプのみで有効です  
RA2300の場合、チャンネル番号は018まで、017が本体イベント、018がE2用の信号名称となります。

## 7.4. ページアノテーションテキストファイルのフォーマット

ページアノテーション文字列のファイルフォーマットについて説明します。

ページアノテーション文字列は“TIP”の接頭文字に加え3桁の行番号の後に、任意の文字列が続きます。行番号は001～108まであります。

```
//Page Annotation
TIP001, ユーザーページアノテーション
TIP002,
  ~ <省略> ~
TIP106,
TIP107,
TIP108,
```

## 7.5. 計測情報テキストファイルのフォーマット

計測情報文字列のファイルフォーマットについて説明します。

計測情報文字列は“THD”の接頭文字に加え3桁の行番号の後に、任意の文字列が続きます。行番号は001～108まであります。

```
//Header
THD001, 計測情報文字列
THD002,
THD003,
  ~ <省略> ~
THD107,
THD108, 計測情報文字列の終わり
```

## 7.6. 通信設定テキストファイルのフォーマット

通信設定情報のファイルフォーマットについて説明します。

通信設定情報は“COM”の接頭文字に加え3桁の行番号の後に、通信設定情報がつづきます。

奇数の行番号は、設定についてのコメント情報です。

偶数の行番号は、設定情報です。(ひとつ上の行のコメントを参照してください)

```
//Communication
COM001, Communication Port : NONE / LAN / RS-232C
COM002, NONE
COM003, Connect UPS to RS232C : ON / OFF
COM004, OFF
COM005, Baudrate : 2400 / 4800 / 9600 / 19200 / 38400
COM006, 9600
COM007, Data bits : 8 / 7
COM008, 8
COM009, Stop bits : 1 / 2
COM010, 1
COM011, Parity : NONE / ODD / EVEN
COM012, NONE
COM013, Flow control : RTSCTS / XONXOFF
COM014, RTSCTS
COM015, Delimiter : CRLF / CR / LF
COM016, CRLF
COM017, Timeout : [0-60]s
COM018, 10
COM019, Use DHCP : ON / OFF
COM020, OFF
COM021, IP address
COM022, 192.168.15.21
COM023, Sub net mask
COM024, 255.255.255.0
COM025, Gateway address
COM026, 192.168.15.1
```



## 7.7.関数演算テキストファイルのフォーマット

関数演算設定情報のファイルフォーマットについて説明します。

関数演算設定情報は“FNC”の接頭文字に加え3桁の行番号の後に、任意の文字列が続きます。

行番号は001～500まであります。

行番号	文字列の意味
001 ～ 032	演算式
101 ～ 132	演算結果の波形表示範囲（最大値）
201 ～ 232	演算結果の波形表示範囲（最小値）
301 ～ 332	演算結果の表示単位
401 ～ 332	定数
500	移動平均ポイント数

```
//Function
FNC001,SQRT(POW2(d1)+POW2(d2)+POW2(d3))
  ~ <省略> ~
FNC016,d16
FNC101, 10.000
FNC201, -10.000
FNC301,
  ~ <省略> ~
FNC116, 10.000
FNC216, -10.000
FNC316,
FNC401, 1.0000
FNC402, 2.0000
FNC403, 3.0000
  ~ <省略> ~
FNC409, 3.1416
FNC410, 9.8067
FNC500, 10
```

RA2300の場合、演算番号は\*16までとなります。

## 8.再生モニタ マーク表示のON / OFF機能

再生モニタ上に表示される「トリガ検出」「マーク検出」のライン表示をON/OFFすることができます。

### 8.1.マーク表示の操作

再生モニタを表示します。

TOPバーにある「デジタル表示」キーを数回タッチして、カーソル位置情報を表示します。

カーソル位置情報部の上段にある「マークON/OFF」のチェックボックスを操作することにより、波形モニタ上のマーク表示をON/OFFすることができます。



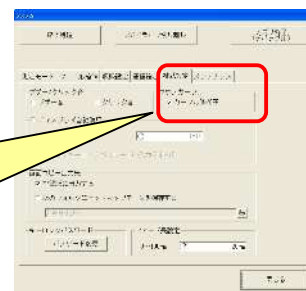
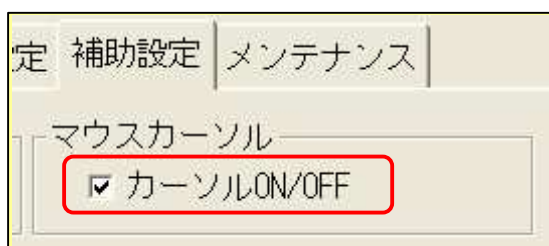
## 9.マウスカーソルのON / OFF機能

本体をUSBマウスで制御できるようマウスカーソルをON / OFFすることができます。

### 9.1.マウスカーソルの操作

システム画面 - 補助設定タブを表示します。

カーソルON/OFFのチェックボックスを操作し、マウスカーソルをON/OFFすることができます。



## 10.ファイル種別ソート機能

再生画面でのファイル選択時、拡張子によりファイルをソートすることができます。

### 10.1.ファイル種別ソートの操作

再生画面 - データ選択ウィンドウを表示します。

「EXT」部分をタッチすると拡張子ごとにソートされます



## 11.通信コマンドの追加

LAN / RS-232C通信ポートからコマンドで本体を制御するコマンドを追加しています。  
お客様独自の制御プログラムを作成される場合、標準の通信取扱説明書とあわせて参照ください。  
通信取扱説明書は弊社HPからダウンロード可能です。

WINDOWトリガモードでイベントアンプのトリガ条件設定をする通信コマンドを追加しました。  
既存コマンド(STW/ITW)はアナログのみの対応でしたが、本機能追加によりイベントチャンネルにも対応します。

### 11.1.STW WINDOWトリガ条件の設定

機能	WINDOWトリガ条件の設定
入力形式	STW P1, P2, P3, P4, P5, P6 (デリミタ) : アナログの場合 STW P1, P2, P3, P4 (デリミタ) : イベントの場合
	P1: チャンネル番号 [1 - 16], E1 P2: 検出のON/OFF 0 = OFF、 1 = ON
	アナログ系アンプの場合 P3: <予約> P4: トリガレベル上限 測定値で指定 (ダイナミックレンジの範囲内で指定) P5: トリガレベル下限 測定値で指定 (ダイナミックレンジの範囲内で指定) P6: トリガ発生方向 1 = IN、 2 = OUT
	イベントアンプの場合 P3: 検出論理 1 = AND、 2 = OR P4: 検出パターン 0 = X、 1 = H、 2 = L 左からSig1, Sig2, ... Sig8 と文字を並べます。 例: HHLL XXHLの場合 “11220012” となります。 <u>本体イベントの場合 (P1=E1)</u> 信号数が16あるため、検出パターンの文字数が8文字から16文字になります。
出力形式	なし
解説	本体動作中は実行エラーとなります。 指定したチャンネルが空の場合パラメータエラーとなります。

### 11.2.ITW WINDOWトリガ条件の読み出し

機能	WINDOWトリガ条件の読み出し
入力形式	ITW P1 (デリミタ)
	P1: チャンネル番号 [1 - 16], E1
出力形式	A1, A2, A3, A4, A5 (デリミタ) : アナログの場合 A1, A2, A3 (デリミタ) : イベントの場合
	A1: 検出のON/OFF 0 = OFF、 1 = ON
	アナログ系アンプの場合 A2: <予約> A3: トリガレベル上限 測定値で表記 A4: トリガレベル下限 測定値で表記 A5: トリガ発生方向 1 = IN、 2 = OUT
	イベントアンプの場合 A2: 検出論理 1 = AND、 2 = OR A3: 検出パターン 0 = X、 1 = H、 2 = L 左からSig1, Sig2, ... Sig8 と文字を並べます。 例: HHLL XXHLの場合 “11220012” となります。 <u>本体イベントの場合 (P1=E1)</u> 信号数が16あるため、検出パターンの文字数が8文字から16文字になります。
解説	指定したチャンネルが無効なアンプの場合パラメータエラーとなります。 P1が不正の場合、パラメータエラーとする。出力は “?, ?, ?, ?” となります。

入力モニタの状態を制御する通信コマンドを追加しました。

### 11.3.SIF 入力モニター時停止の設定

機能	入力モニター時停止の設定を行います。
	SIF P1(デリミタ)
	P1:一時停止 (0=解除 1=停止)
出力形式	なし
解説	P1:一時停止設定の省略時は一時停止を解除するように動作します。 ペンレコーダ時は一時停止の指定を無視します。 再生モニタ画面を表示中、本コマンドを受信すると入力モニタ画面に移動します。

### 11.4.IIF 入力モニター時停止の読出し

機能	入力モニター時停止の設定を読み出します。
入力形式	IIF(デリミタ)
出力形式	A1(デリミタ)
	A1:一時停止 (0=解除, 1=停止)
解説	

### 11.5.SIS 入力モニタトリガ同期の設定

機能	入力モニター時停止の設定を行います。
	SIS P1(デリミタ)
	P1:トリガ同期 (0=OFF, 1=ON)
出力形式	なし
解説	P1:トリガ同期設定の省略時は現在の設定を保持します。 ペン・X-Yレコーダ時、トリガ同期 = ONの設定は無視します。 再生モニタ画面を表示中、本コマンドを受信すると入力モニタ画面に移動します。

### 11.6.IIS 入力モニタトリガ同期の読出し

機能	入力モニタ速度トリガ同期の設定を読み出します。
入力形式	IIS(デリミタ)
出力形式	A1(デリミタ)
	A4:トリガ同期 (0=OFF, 1=ON)
解説	

収録・記録動作のON / OFFを設定する通信コマンドを追加しました。

### 11.7.SRI 収録・記録のON / OFF設定

機能	収録・記録のON / OFF設定					
入力形式	SRI P1, P2, P3, P4, P5 (デリミタ)					
	P1 : チャート記録		( 0=OFF、1 = ON )	( 省略可能 )		
	P2 : メモリ収録		( 0=OFF、1 = ON )	( 省略可能 )		
	P3 : メモリオートコピー		( 0=OFF、1 = ON )	( 省略可能 )		
	P4 : メモリバックアップファイリング		( 0=OFF、1 = ON )	( 省略可能 )		
	P5 : HD収録		( 0=OFF、1 = ON )	( 省略可能 )		
出力形式	なし					
解説	P1～P5は任意に省略可能、省略時現在の設定を維持します。 全てのパラメータを省略した場合はパラメータエラーとなります。 レコーダモードにより指定した設定を無視する場合があります。 各レコーダモード時における、収録のON / OFF設定の状態を以下に記します					
	モード	チャート記録	メモリ収録	オートコピー	バックアップ	HD収録
	ペンレコ	ON	OFF	OFF	OFF	OFF
	メモリ	OFF	ON	*	*	OFF
	HD	*	OFF	OFF	OFF	ON
	マルチ	*	ON	OFF	ON	ON
	X - Y	*	OFF	OFF	OFF	*
ON = ON固定、OFF = OFF固定、* = 設定によりON / OFF						

#### 注意

レコーダモードにより設定可能な項目が異なります。設定が不可能な項目に対しての設定は無視されます。

例：HDレコーダの場合、チャート記録のON / OFF設定はできますが、HD収録はON固定であり設定できません。HDレコーダに対する設定は無視されます。

### 11.8.IRI 収録・記録のON / OFF読み出し

既に対応済みですが、設定コマンドと一対であるため、仕様を記します。

機能	収録・記録のON / OFF読み出し
入力形式	IRI(デリミタ)
出力形式	A 1 , A 2 , A 3 , A 4 , A 5 (デリミタ) A 1 :チャート記録 (0=OFF、1 = ON) A 2 :メモリ収録 (0=OFF、1 = ON) A 3 :メモリオートコピー (0=OFF、1 = ON) A 4 :メモリバックアップファイリング (0=OFF、1 = ON) A 5 :HD収録 (0=OFF、1 = ON)
解説	レコーダモードにより設定をマスクする場合があります。 各レコーダモード時における、収録のON / OFF設定の状態については 「11.7 SRI 収録・記録のON / OFF設定」解説の内容と同じです。

設定値の初期化を実行する通信コマンドを追加しました。  
また、通信時の問題を回避するため設定値の初期化の動作を一部変更しました。

#### システム画面 初期化ダイアログ

「すべての設定値を初期化する」のチェックボックスにチェックをつけて初期化を実行した場合、通信関連の設定も初期化していましたが、通信関連の設定は初期化しないようにしました。

これにより、初期化実行後も通信プロトコルが変更されないため継続して通信接続できるようになります。

#### 注意

従来通り「通信関連の設定」を含めた初期化を実行したい場合、「通信設定を初期化する」にチェックを追加して初期化を実行してください。

### 11.9.ESI システムイニシャライズコマンド

機能	システムイニシャライズ		
入力形式	E S I P 1 (デリミタ)		
	P 1 :初期化内容		
	P 1	初期化内容の設定	
	1	本体設定データのみ初期化	
	2	本体設定データと全メモリブロックを初期化	
	省略時	P 1 = 2と同じ	
入力形式	E S I (デリミタ)		
出力形式	なし		
解説	通信設定は初期化されません。 本体動作中は実行エラーとなります。 初期化 + アプリケーションの再起動が実施されます。		
注意			

#### 注意

ESIコマンドによる初期化を実行すると、メインプログラムの再起動が必要となり、通信接続が強制的に切断されます。このため初期化実行後は再接続が必要となります。  
処理完了まで約5秒必要です。本コマンドを実行後は十分な待ち時間をおいて再接続してください。

#### 注意

P1=1、メモリブロックをクリアしない場合でも、初期化によりブロックサイズが変化した場合、メモリデータは失われます。

再生モニタの時間軸カーソル、CSV保存の時間軸などの表示形式を制御する通信コマンドを追加しました。

### 11.10.SBR レコーダ基本設定

機能	時間軸表記の設定
入力形式	SBR P1, P2, P3, P4 (デリミタ)
	P1: < 予約 >      無視する P2: 時間軸表記形式 (1 = 数値、 2 = 時間、 3 = 時刻) P3: < 予約 >      無視する P4: < 予約 >      無視する
出力形式	なし
解説	本体動作中は実行エラーとなります。

### 11.11.IBR レコーダ基本設定の読み出し

機能	時間軸表記の読み出し
入力形式	IBR (デリミタ)
出力形式	A1, A2, A3, A4 (デリミタ)
	A1: 0 固定 A2: 時間軸表記形式 (1 = 数値、 2 = 時間、 3 = 時刻) A3: 1 固定 A4: 0 固定
解説	

メモリブロックサイズを任意の数値で制御する通信コマンドを追加しました。

### 11.12.SML メモリブロックサイズ(メモリブロック長)の設定

機能	メモリブロックサイズを任意の数値で設定します
入力形式	SML P1 (デリミタ)
	P1: メモリ収録データ数 (1000 ~ 61865984) 有効サイズ(上限値)は総メモリ容量を有効チャンネル数で割った値となります。 上記P1の上限値は収録するチャンネル数が1の場合の値です。実際には収録チャンネル数 (「SRC 収録チャンネル」で設定)で割った値が上限となります。
出力形式	なし
解説	本体動作中は実行エラーとなります。 メモリブロックサイズを変更すると、メモリデータは削除されます。 また指定されたサイズにより最大128までのメモリ分割が実行されます。

### 11.13.IML メモリブロックサイズ(メモリブロック長)の読み出し

機能	ブロックサイズの設定を出力します。
入力形式	IML (デリミタ)
出力形式	A1 (デリミタ)
	A1: 収録データ数
解説	

- (1)本書の内容の全部または、一部を無断で転載することは固くお断り致します。  
(2)本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。

**RA2300シリーズ**  
**追加機能 取扱説明書 (95691 - 2611 - 0000)**

2007年 7月 初版 発行  
2008年 4月 第2版 発行

**NEC Avio赤外線テクノロジー株式会社**